

Ⅲ 救急の概要

1. 救急体制

(1) 救急業務実施体制

県内の救急体制は、昭和38年の消防法改正により救急業務が消防の任務として法制化されて以来、逐次整備充実されており、令和2年4月1日現在、県内全市町村において救急業務を実施している。

救急業務実施市町村（義務実施）

各年4月1日現在

	市町村数	人口(人)	人口カバー率(%)
昭和40年	4	326,530	38.5
昭和50年	16	786,596	73.9
令和2年	39	1,326,241	100.0

(2) 応援協定による救急業務

近隣市町村等による相互応援協定、西名阪自動車道消防相互応援協定を締結して、救急業務を実施している。

西名阪自動車道における救急体制

令和2年4月1日現在

	柏原 IC	香芝 IC	法隆寺 IC	郡山 IC	天理 料金所	天理 IC
上り車線	奈良県広域消防組合					
下り車線	柏原羽曳野藤井寺 消防組合	奈良県広域消防組合				

(3) 救急隊員と装備

救急業務は、人命救助という重要な業務であることから、現在は、救急隊員の応急処置の内容が明確化され、また、救急隊員に対する教育講習も義務づけられたことにより、救急業務の内容が質的に向上している。

令和2年4月1日現在、救急隊員数は1,206名で、救急自動車数は82台である。

2. 救急医療体制

(1) 救急告示病院

救急患者を受け入れるべき救急告示の病院及び診療所数は、令和2年4月1日現在、41機関である。

医療機関数

令和2年4月1日現在

	病 院			診 療 所	計	前年同期
	国 公 立	公 的	私 的			
救 急 告 示	11	3	27	0	41	41
そ の 他	31	20	31	1,072	1,154	1,144

(2) 救急医療体制の整備

休日・夜間における救急需要の増大に対処するため、県では、1次救急医療については、市町村を中心に地域医師会の協力を得て実施し、2次救急医療については、市町村が病院群輪番制により体制を確保しているほか、救急告示病院が救急患者を受け入れている。また、3次救急医療については、県立医科大学附属病院に高度救命救急センター、奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院に救命救急センターが設置され、救急業務の円滑、適正な遂行を確保するため、体系的な救急医療体制の確立を図っている。

3. 救急業務実施状況

(1) 救急出場件数と搬送人員

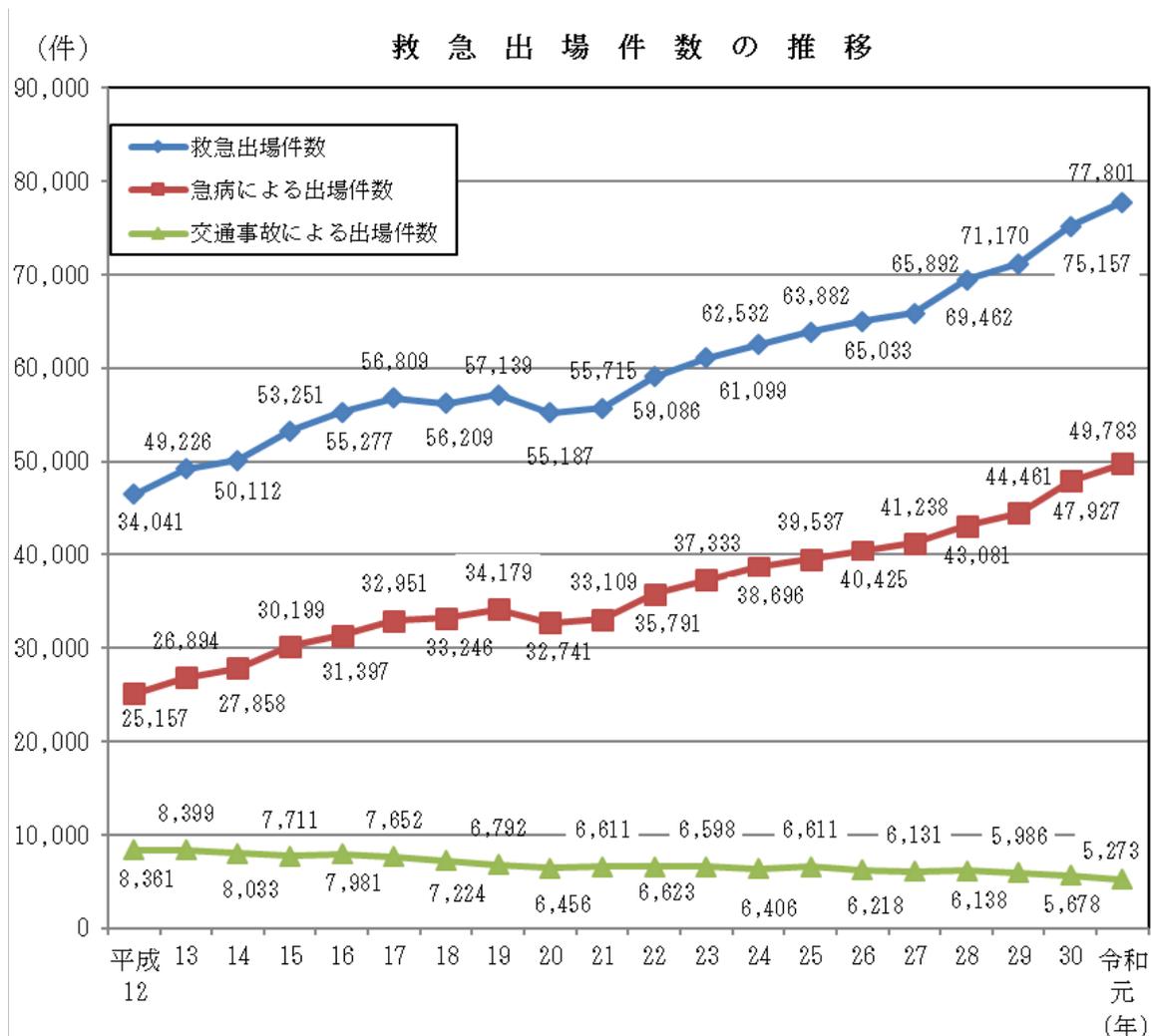
令和元年中（1月～12月）における県内の救急業務実施状況は、出場件数77,801件、搬送人員71,228人で、前年に比べ出場件数で2,644件（3.5%）増加、搬送人員で1,724人（2.5%）増加した。

また、人口1万人当たりの出場件数は587件で、1日平均では213件、約7分に1回の割合で救急隊が出場していることとなる。

救急出場件数及び搬送人員

（単位：件、人、%）

	救 急 出 場 件 数						搬 送 人 員
		うち交通事故によるもの		うち急病によるもの		人口1万人 当 たり 出 場 件 数	
		件数	構成比	件数	構成比		
平成27年	65,892	6,131	9.3	41,238	62.6	452	61,241
平成28年	69,462	6,138	8.8	43,081	62.0	472	64,375
平成29年	71,170	5,986	8.4	44,461	62.5	489	65,772
平成30年	75,157	5,678	7.6	47,927	63.8	563	69,504
令和元年	77,801	5,273	6.8	49,783	64.0	587	71,228



(2) 事故種別出場件数及び搬送人員

令和元年中（1月～12月）の事故種別出場件数は、急病が64.0%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

また、事故種別搬送人員も急病が64.6%と最も多く、続いて一般負傷、交通事故の順となっている。

事故種別救急出場件数及び搬送人員（令和元年中）

（単位：件、人、%）

	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損	急病	その他	計
出場件数	280	0	22	5,273	792	520	12,613	232	583	49,783	7,703	77,801
構成比	0.4	0.0	0.0	6.8	1.0	0.7	16.2	0.3	0.7	64.0	9.9	100.0
搬送人員	62	0	14	5,094	745	510	11,848	192	408	45,978	6,377	71,228
構成比	0.1	0.0	0.0	7.2	1.0	0.7	16.6	0.3	0.6	64.6	9.0	100.0

(3) 年齢別・傷病程度別搬送人員

令和元年中（1月～12月）の年齢別搬送人員は、老人が44,053人（61.8%）で最も多く、次いで成人20,352人（28.6%）となっており、新生児は121人（0.2%）となっている。

一方、搬送人員を傷病程度別にみると、死亡723人（1.0%）、重症4,807人（6.7%）、中等症31,239人（43.9%）、軽症34,452人（48.4%）、その他7人（0.01%）となっている。

年齢区分別、事故種別及び傷病程度別搬送人員（令和元年中）

（単位：人）

	合計	事故種別					傷病程度別				
		火災	交通事故	一般負傷	急病	その他	死亡	重症	中等症	軽症	その他
乳幼児等	3,874	2	140	1,064	2,436	232	3	36	832	3,003	0
少年	2,949	7	459	430	1,571	482	2	36	638	2,273	0
成人	20,352	26	2,930	2,021	12,592	2,783	107	1,002	6,929	12,310	4
老人	44,053	27	1,565	8,333	29,379	4,749	611	3,733	22,840	16,866	3
合計	71,228	62	5,094	11,848	45,978	8,246	723	4,807	31,239	34,452	7

（注）乳幼児等=満7歳未満、少年=満7歳以上18歳未満、成人=満18歳以上65歳未満、老人=満65歳以上。

（4）医療機関別搬送人員

令和元年中（1月～12月）の搬送人員のうち救急告示医療機関へ搬送された救急患者は68,951人（96.8%）で、救急告示以外の医療機関へ搬送された者は、2,276人（3.2%）となっている。

また、医療機関への搬送時間は、30分以上60分未満が47,698人（67.0%）で最も多く、30分までに搬送された者は、全体の23.8%（前年は22.8%）となっている。

医療機関別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	医療機関				接骨院等 ・その他	
		救急告示		救急告示以外		人数	構成比
		人数	構成比	人数	構成比		
平成27年	61,241	57,294	93.6	3,922	6.4	25	0.0
平成28年	64,375	61,043	94.8	3,326	5.2	6	0.0
平成29年	65,772	62,993	95.8	2,775	4.2	4	0.0
平成30年	69,504	67,090	96.5	2,410	3.5	4	0.0
令和元年	71,228	68,951	96.8	2,276	3.2	1	0.0

収容所要時間別搬送人員

（単位：人、%）

	合計	10分未満	10～19分	20～29分	30～59分	60～119分	120分以上
平成27年	61,241	9	1,201	11,207	39,177	8,929	718
平成28年	64,375	6	1,021	11,863	42,862	8,093	530
平成29年	65,772	8	1,106	13,015	44,118	7,112	413
平成30年	69,504	4	1,301	14,560	46,694	6,602	343
令和元年	71,228	5	1,363	15,618	47,698	6,237	307
構成比	100.0	0.0	1.9	21.9	67.0	8.8	0.4

（5）転送の回数と理由

令和元年中（1月～12月）に医療機関へ搬送した患者のうち、転送を余儀なくされたものは225人、前年は250人で、そのうち2回以上されたものは、3人（前年2人）であった。

転送の理由は、処置困難が125件（56.3%）で最も多く、次いで専門外が44件（19.8%）となっている。

転送回数別患者数と転送の理由別件数

(単位：人、件)

	転送回数別患者数				転送の理由別件数							
	計	1回	2回	3回以上	計	ベッド満床	専門外	医師不在	手術中	処置困難	その他	
平成26年	424	419	5	0	424	26	114	1	1	211	71	
平成27年	390	386	3	1	389	24	103	1	3	200	58	
平成28年	327	325	2	0	328	16	102	1	0	163	46	
平成29年	283	283	0	0	282	9	54	1	0	175	43	
平成30年	250	248	2	0	251	7	49	1	0	143	51	
令和元年	225	222	3	0	222	13	44	2	0	125	38	

(6) 救急隊員の行った応急処置

令和元年中（1月～12月）の搬送人員のうち、救急隊員が何らかの応急処置を行った救急患者は71,036人（搬送人員の99.7%）で、その内容は、血中酸素飽和度の測定が99.0%で最も多く、次いで心電図、酸素吸入、保温となっている。

救急隊員の行った応急処置

(単位：件、%)

	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	構成比
	止血	1,458	1,468	1,370	1,362	
固定	3,690	3,788	3,586	3,227	2,861	1.2
人工呼吸	440	415	376	261	234	0.1
心マッサージ	31	50	42	49	48	0.0
心肺蘇生	1,248	1,255	1,274	1,285	1,295	0.5
酸素吸入	11,828	11,639	11,991	12,005	11,939	4.9
気道確保	2,539	2,288	2,321	2,120	2,016	0.8
保温	6,512	7,287	7,590	7,217	5,834	2.4
被覆	4,876	5,068	4,958	4,901	4,700	1.9
除細動	168	161	158	169	132	0.1
静脈路確保（輸液）	562	674	739	880	857	0.4
心電図	22,678	25,645	26,523	28,014	28,694	11.8
血中酸素飽和度の測定	60,205	63,345	64,648	68,507	70,306	28.8
その他	92,078	98,467	227,560	109,140	113,797	46.6
合計	208,313	221,550	227,560	239,137	244,086	100.0

(7) 高速自動車国道における救急業務

西名阪自動車国道における救急業務の実施状況（令和元年中）

(単位：件、人)

実施団体	担当区域	出場件数	搬送人員
奈良県広域消防組合	天理インター～柏原インター（上り）	45	32
	香芝インター～天理インター（下り）		